

## 100 世界遺産の旅 (124)

### 屋久島

1993 年、日本で初めて世界遺産に登録されたのは、文化部門の「法隆寺地域の仏教建造物」と「姫路城」、自然部門の「白神山地」と「屋久島」であった。

1969 年、20 歳の夏に、「洋上アルプス」と呼ばれる屋久島を訪れ、九州最高峰の宮之浦岳に登頂した。



宮之浦港 (海拔 0m)、屋久島、1969 年 8 月

早朝、国鉄鹿児島駅に到着し、歩いて 30 分の所にあるフェリー屋久島の船着き場へ向かった。出航後、フェリーは、左舷に桜島を眺めながら錦江湾を南下し、5 時間後に屋久島の宮之浦港に着岸した。

当時、島内の公共交通の便が悪く、突堤だけの宮之浦港 (海拔 0m) から宮之浦岳 (海拔 1936m) までの全行程は、テントを背負って歩いた。



三代杉 (海拔 740m)、屋久島、1969 年 8 月

まずは、初日のテント場を探すため宮之浦港を後にした。幸い、林道の入り口付近に古い建物があったので、無断であるが、宿泊させてもらった。どうも小動物が屋根裏を走るらしく、何度も目が覚めた事を覚えている。

2 日目、いよいよ早朝よりの登坂である。屋久島は、屋久杉の産地で、伐採した杉は、トラックで安房へ運んでいた。我々は、トラックと遭遇する危険を避けるため、敢えて宮之浦よ

り楠川歩道コースを選び、白谷雲水峡 (海拔 600m) の森の景色を楽しみながら、小杉谷山荘を目指した。辻峠、楠川の分れを経由して、午後 1 時頃、トラック従業員や登山者が利用する小杉谷山荘 (海拔 740m) に到着し、近場の空き地を借りて、早速テントを設営した。

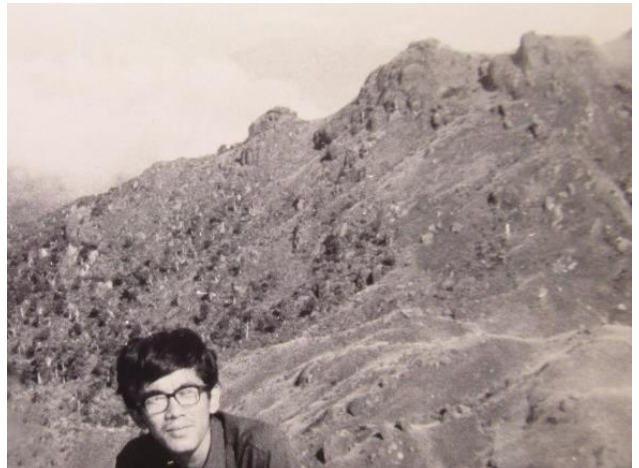


宮之浦岳 (海拔 1936m)、屋久島、1969 年 8 月

3 日目、小杉谷山荘より花之江河 (海拔 1640m) へ向かったが、予想以上の急勾配で這うようにしての登坂であった。花之江河は、雪解け水で出来た湿地で、美しい湖水が見られた。

4 日目、漸く宮之浦の頂上に辿り着いた。途中、ガスっていたが、一瞬、強風が霧を飛ばした直後に、黒味岳の大きな岩山が、眼前に出現した時は、感動の余りに絶叫してしまった。

宮之浦岳に登頂した後、北の永田岳へ向った。永田岳から海岸へ一直線に落ち込む断崖と、その向こうで噴煙を上げる硫黄島の眺望は、まさに絶景である。また、北東の眼下に、草鞋の如く横たわる種子島も印象的だった。



宮之浦岳より永田岳 (海拔 1886m)、1969 年 8 月

屋久島の「ひと月に 35 日の雨が降る」は、林芙美子「浮雲」の文言だが、幸いにして、滞在した 10 日間は、希に見る快晴であった。

栗生へ下って、無舗装の県道を歩いて安房へ向った。強烈な太陽の日差しの下、恐ろしいぐらい濃い紺碧の海は、若き日々の思い出として、未だに強く脳裏に残っている。